



ユーザーズ・マニュアル

_MICROLAB MK3

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric BRUN

プロジェクト・マネジメント

Yi-Chun HUNG

プロダクト・マネジメント

Pierre PFISTER Farès MEZDOUR

開発

Thierry CHATELAIN Sylvain MAVON Marie PAULI
Pierre DECHERF Timothée BEHETY Antonio EIRAS

デザインおよびパッケージング

Pierre PFISTER Agustina PASSERON Jérôme BLANC

品質

Jean-Gabriel SCHOENHENZ Marion LOUBET Anthony LE CORNEC Aurore BAUD

生産

Nicolas DUBOIS Yi-Chun HUNG

ユーザー・マニュアル

Sven BORNEMARK (writer) Félicie Khenkeo Holger Steinbrink (ドイツ語) Ana Artalejo (スペイン語)
Jimmy MICHON Charlotte Métais (フランス語) Minoru Koike (日本語)

© ARTURIA SA – 2025 – All rights reserved.
26 avenue Jean Kuntzmann
38330 Montbonnot-Saint-Martin
FRANCE
www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについて Arturia は何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 29 April 2025

Arturia MicroLab mk3 をお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは、お持ちのあらゆる DAW やソフトウェアインストゥルメントで音楽制作ができるよう設計された、ポータブルでパワフルな MIDI コントローラーである Arturia **MicroLab mk3** の各種機能と操作方法などをご紹介します。



MicroLab mk3 にはソフトウェアインストゥルメントの Analog Lab Intro を付属していますが、本マニュアルでは MicroLab mk3 に焦点を絞ってその機能等をご紹介します。Analog Lab Intro の主な機能につきましては、Analog Lab のユーザーマニュアルをご覧ください。

本パッケージの内容は次の通りです：

- MicroLab mk3 キーボードコントローラー：シリアルナンバーとアンロックコードは本体底面に記載されています。この2つは、MicroLab mk3 の製品登録と付属ソフトウェアをダウンロードする際に必要となります。
- USB-C → USB-A 変換ケーブル
- 付属ソフトウェアの入手に必要なシリアルナンバーとアンロックコードが記載されているシート

MicroLab mk3 の製品登録

MicroLab mk3 の本体底面には、シリアルナンバーとアンロックコードが記載されたステッカーが貼付されています。この2つはオンラインで製品登録する際に入力求められます。

以下の2つのステップで、MicroLab mk3 の設定をしたり、無料のソフトウェアを入手したり、MicroLab mk3 をお持ちの機材に統合したり、チュートリアルにアクセスすることができるようになります：

1. MicroLab mk3 をコンピュータに接続します。
2. <https://link.arturia.com/mimk3st> にアクセスし、表示される指示に従って作業を進めます。

製品登録を行うと、次のソフトウェア等を入手できます：

- Arturia **Analog Lab Intro**
- MicroLab mk3 の **ユーザーマニュアル** と最新版の **MIDI Control Center** ソフトウェア
- **Ableton Live Lite** DAW ソフトウェア

使用上のご注意

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本機は、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

知識の不足による誤った操作から発生する問題に対するサポートは保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、お買い上げの販売店とご相談の上、サポートを依頼されることをお勧めします。

安全にご使用いただくために

注意事項としては以下のものを含みますが、これらに限定されるものではありません：

1. 取扱説明書をよくお読みになり、理解してください。
2. 本機に表示されている指示に従ってください。
3. 本機のお手入れの際は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外してください。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないでください。
4. 本機を浴室やキッチンシンク、水泳プールまたはそれらに準じた水の近くや多湿な場所で使用しないでください。
5. 本機を落下の危険性がある不安定な場所に設置しないでください。
6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機の開口部や通気孔等を塞がないでください。これらは、過熱から本機を守るための空気の循環用のものです。また、本機を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に設置しないでください。
7. 本機を開けたり異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
8. いかなる液体も本機にこぼさないでください。
9. 修理の際は正規サービスセンターにご依頼ください。お客様ご自身で蓋やカバーを開けると保証の対象外となり、正規の手順に依らない組み立てや動作試験を行うと感電や別の故障の原因になる場合があります。
10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。距離が離れていても感電の恐れがあります。
11. 本機を直射日光に当てないでください。
12. ガス漏れが発生している場所付近で本機を使用しないでください。
13. Arturia は本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失に責任を負いません。

目次

1. イントロダクション	2
1.1. MicroLab mk3 主な特長	3
2. オーバービュー	5
2.1. 接続する	5
2.2. MicroLab mk3 を最新の状態に保つ	7
2.3. Top Panel - トップパネル	8
2.4. リアパネル	8
2.5. MicroLab mk3 の機能詳細	9
2.5.1. Shift ボタン	9
2.5.2. Hold ボタン	9
2.5.3. Octave ボタン	10
2.5.4. ピッチとモジュレーション・タッチストリップ	10
2.5.5. シフト機能	11
3. MicroLab mk3 で Analog Lab を操作する	14
3.1. オーディオと MIDI の設定	15
3.2. 音を出す	16
3.3. プリセットの選択	16
4. MIDI Control Center	17
4.1. 基本事項	17
4.1.1. インストールされる場所	18
4.1.2. コンピュータと接続する	18
4.2. MicroLab mk3 と MIDI Control Center	19
4.2.1. MicroLab mk3 で使用できるパラメーター	20
5. 規制関連情報	21
6. ソフトウェア・ライセンス契約	22

1. イントロダクション

MicroLab mk3 は、Arturia で最もコンパクトでポータブルな USB MIDI キーボードコントローラーです。25鍵のベロシティ対応キーボード、コンピュータからの電源供給を受け、MIDI メッセージの送受信が行える USB-C ポートを装備し(ケーブル付属)、Arturia Analog Lab と完全統合でき、他社製ソフトウェアシンセサイザーもコントロールできます。MicroLab mk3 に注ぎ込まれた細部へのこだわりは、超軽量で超ポータブルなキーボードを必要とする、移動の多いミュージシャンに最適です。



MicroLab mk3 (ホワイトバージョン)

MIDI コントローラーとして素晴らしい機能を搭載しているだけでなく、MicroLab mk3 は **Analog Lab Intro** ソフトウェアを付属しており、クラシックなシンセサイザーやキーボードの音色を多数使用できます。この2つを組み合わせることにより、素晴らしいサウンドと機能を備えたハイブリッド・シンセサイザーとして使用することができます。



Analog Lab Intro

また、DAWの世界へ踏み出すのに役立つ、**Ableton Live Lite** のライセンスも付属しています。

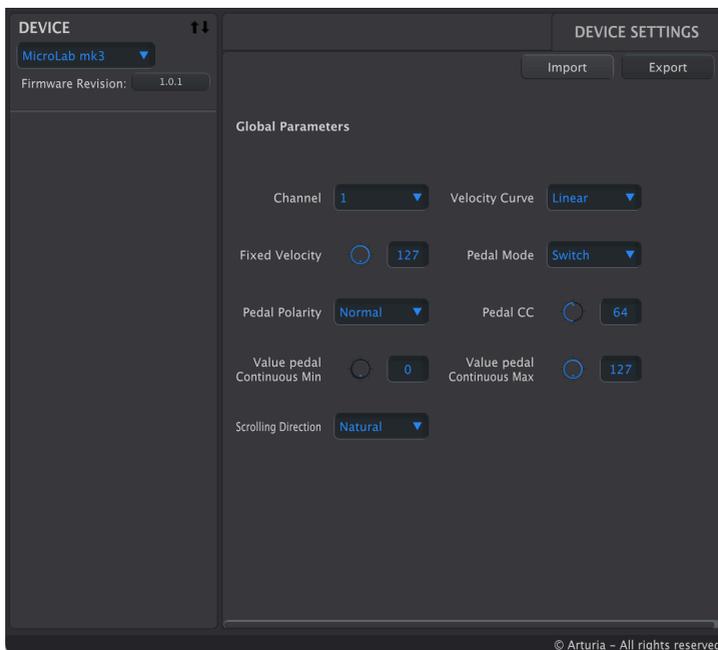
Analog Lab Intro を Analog Lab のフルバージョンにアップグレードするには、手頃な価格で簡単な方法があります。これにより、Analog Lab Intro で聴くことができるよりも遥かに多くの、数千種類ものサウンドにアクセスできるようになります！ 次のリンクからアップグレードできます：www.arturia.com/analoglab-update



MicroLab mk3 (ブラックバージョン)

MicroLab mk3 は、革新的なピッチ&モジュレーションのタッチストリップも装備しています。この薄型コントローラーは、従来の「ホイール」と同様の表現力を備えつつ、ホイールでは不可能な表現も可能な画期的なものです。

付属の MIDI Control Center により、MicroLab mk3 のさまざまな機能をコンピュータから直接シンプルかつ簡単に設定することができます。これにより、音楽的ニーズに合わせて MicroLab mk3 の各種機能をカスタマイズすることができます。



移動の多いミュージシャンや限られたスペースでのパフォーマンスに最適な MicroLab mk3 は、超軽量で見ても美しいポータブルなパッケージに、奥深い機能を搭載しています。いつでもどこでも、音楽的アイデアをキャッチできることを願っています。

1.1. MicroLab mk3 主な特長

- 25鍵、ベロシティ対応スリムキーボードを装備。
- ポータブル性を最大限にするミニマルなデザイン。
- ピッチベンドとモジュレーションのスマートなタッチコントロール。
- ホールドボタンによりハンズフリー (そしてフットフリー) のサステインが可能。
- コードを記憶してワンフィンガーで演奏できるコード機能を内蔵。
- 広い音域をカバーできるオクターブアップ/ダウン機能を搭載。
- Shift + Oct ボタンでプログラムチェンジを送信可能。
- USB-C で電源供給と MIDI 信号の送受信が可能。
- サステインペダルやフットスイッチ、またはエクスプレッションペダルを接続できる 6.35mm TRS 端子を装備。
- 付属ソフトウェア：
 - Arturia Analog Lab Intro
 - Ableton Live Lite DAW ソフトウェア

2. オーバービュー

2.1. 接続する

MicroLab mk3 を Analog Lab Intro で使用するための設定は、簡単にスピーディに行えます：

MicroLab mk3 の本体底面にシリアルナンバーとアンロックコードが記載されたステッカーが貼ってあります。この2つは、MicroLab mk3 をオンラインで製品登録する際に必要となります。

次の2つのステップで、MicroLab mk3 の設定や無料ソフトウェアの入手、お持ちの機材への MicroLab mk3 の導入や、チュートリアルにアクセスできるようになります：

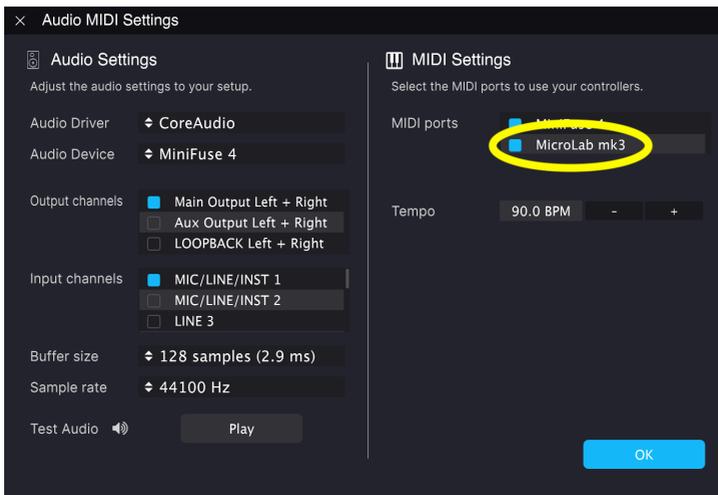
1. MicroLab mk3 を付属の USB ケーブルでコンピュータに接続します。
2. 次のリンクにアクセスし、表示される指示に従って作業を進めます：

<https://link.arturia.com/mimk3st>

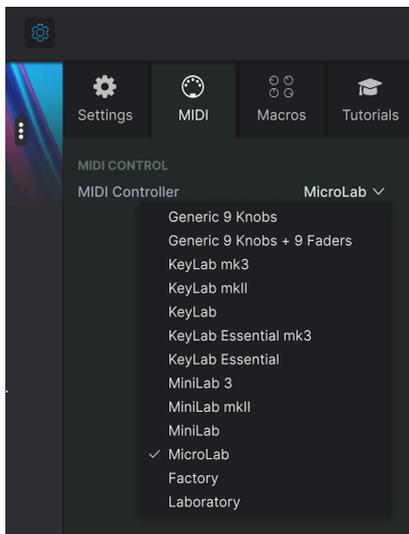


MicroLab mk3 は、クラスコンプライアント USB デバイスですので、MicroLab mk3 をコンピュータに接続するとドライバーを自動的にインストールします。

Analog Lab 上で MicroLab mk3 が MIDI コントローラーとして自動認識されますが、認識されない場合は Analog Lab のメインメニュー (画面左上のハンバーガーアイコン) から Audio MIDI Settings を選択します。



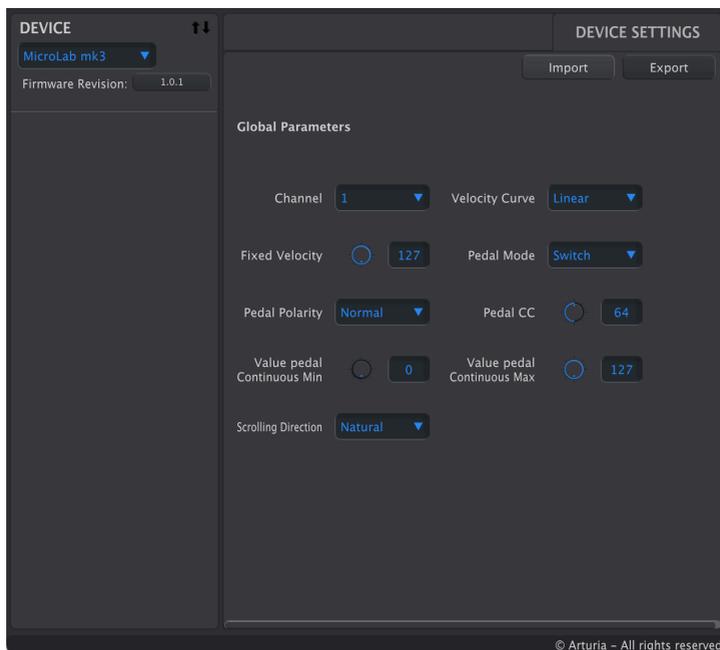
MicroLab mk3 の MIDI 機能を Analog Lab のコントロールマップにするには、Analog Lab の画面右上にあるギアのアイコンをクリックし、MIDI タブを選択し、MIDI Controller のメニューから MicroLab を選択します。



これで設定完了です！ Analog Lab を演奏して素晴らしいプリセットをお楽しみください！

2.2. MicroLab mk3 を最新の状態に保つ

最大限の互換性と機能を得るためには、MicroLab mk3 のファームウェアを常に最新版にしておくことをお勧めします。MicroLab mk3 をコンピュータに接続し、付属ソフトウェアの MIDI Control Center を開きます。



MIDI Control Center の画面左上、**Device** の下に、MicroLab mk3 が自動的に表示されます。表示されない場合は、ドロップダウンメニューから MicroLab mk3 を選択してください。

その下には MicroLab mk3 の現在のファームウェアバージョンが表示されます。そのバージョンよりも新しいファームウェアがある場合、MIDI Control Center が最新ファームウェアを自動的にダウンロードし、MicroLab mk3 をアップデートします。

2.3. Top Panel - トップパネル



MicroLab mk3 のフロントパネルには、次のようなものが装備されています：

1. **Shift ボタン**：コードモードやプログラムチェンジ、MIDI チャンネル選択などの機能にアクセスできます。
2. **Hold**：サステイン機能をオンにし、ピアノのペダルを踏んだときと同様の効果が得られます。
3. **Oct - / Oct + ボタン**：MicroLab mk3 で演奏する音域をオクターブ単位で移動できます。
4. **ピッチ&モジュレーション・タッチストリップ**：タッチセンサ式のストリップでピッチベンドとモジュレーションの MIDI メッセージを送信します。
5. **キーボード**：25鍵のペロシティ対応スリムキーボードです。

2.4. リアパネル



リアパネルには次のような接続端子があります：

1. **ケンジントンロック**：MicroLab mk3 を盗難から防ぎます。
2. **Control ペダル端子**：フットスイッチやサステインペダル、またはエクスプレッションペダルを接続します。
3. **USB-C**：付属の USB ケーブルでコンピュータに接続し、コンピュータから電源が供給され、MIDI メッセージの送受信が行えます。

2.5. MicroLab mk3 の機能詳細

MicroLab mk3 の全機能を詳しくご紹介します。

2.5.1. Shift ボタン

MicroLab mk3 を USB ケーブルでコンピュータに接続すると、短いライトショーが始まり、MicroLab mk3 が起動したことを表示します。その後 Shift ボタンが点灯すると、MicroLab mk3 が使用できる状態になります。



Shift ボタンは、コードモードやプログラムチェンジ、MIDI チャンネル選択などの機能にアクセスするときに使用します。Shift ボタンでアクセスする機能は、本体パネルのボタンやストリップの下、キーボードの最低音から16個のキーの上にグレーの文字で記載されています。

2.5.2. Hold ボタン

Hold ボタンを押すと「サステイン」機能がオンになり、キーボードで弾いた音が長く伸びます。ピアノのサステインペダルを踏んだときと同様の効果になります。Hold ボタンをもう一度押すとサステイン機能がオフになり、それまで鳴っていた音が止まります。MicroLab mk3 にサステインペダルを接続した場合は、ペダルで Hold ボタンの操作が行えます。



ホールド機能がオンになるとボタンが点灯します

2.5.2.1. ラッチモードとモーメンタリーモードの違い

Hold ボタンは **ラッチ** モードで動作します。キーボードを弾いているときに Hold ボタンを押すと、そのときに弾いていたすべての音が長く伸びます。Hold ボタンをもう一度押すとホールド機能がオフになります。

MicroLab mk3 にサステインペダルを接続すると、ピアノのサステインペダルと同様のことがペダルで操作できます。この場合、サステインペダルは **モーメンタリー** スイッチとして機能し、ペダルを踏んでいる間だけ音が長く伸びます。



♪ ホールド機能はコードモードでも使用できます。Hold ボタンを押すだけでホールド機能がオンになります。

2.5.3. Octave ボタン

MicroLab mk3 は、移動に便利な超コンパクトなサイズにするために、2オクターブ (25鍵) のキーボードを採用しています。オクターブボタンを使用することで、より広範囲の音域を演奏することができます。



オクターブ移動が遠くなるほどボタンが明るく点灯します

Oct - ボタンを1回押すと、キーボードの音域が1オクターブ下がります。その結果、接続した音源モジュールやバーチャルインストゥルメントの音程が1オクターブ (12半音) 下がります。Oct - ボタンをもう一度押すと、音域がさらに1オクターブ下がります。このように、最大で上下4オクターブの音域移動ができます。

Oct + ボタンを押すと、最大4オクターブ上まで音域が上がります。



♪ Oct - と Oct + ボタンを同時に押すと、オクターブの設定がリセットされ、デフォルトの音域に戻ります。

2.5.3.1. トランスポーズを瞬時にリセットする

2つの Oct ボタンを同時に押すと、トランスポーズしていない状態へ瞬時に戻ります。これが最も素早く戻す方法です。

2.5.4. ピッチとモジュレーション・タッチストリップ

この2つのタッチセンス式ストリップからは、ピッチベンドとモジュレーションホイールの MIDI メッセージを送信します。この2つを駆使することで、表現力豊かな演奏ができます。



ピッチとモジュレーションのタッチストリップは、従来の「ホイール」タイプの表現力をカバーしつつ、さらに多彩な表現が行える薄型コントローラーです。**ピッチベンド・ストリップ** (左側) のセンター部分にタッチして上や下にスワイプすると、その操作に応じて演奏している音の音程が上下に変化します。

同様に、**モジュレーション・ストリップ** にタッチして上や下にスワイプすると、演奏している音色のモジュレーションの深さが、モジュレーションのない状態 (最低ポジション) から最も深いモジュレーション (最高ポジション) の範囲で変化します。

 **!** ピッチベンドの幅やモジュレーションの種類は、そのときに選択しているプリセットの設定によって変わります。ピッチベンドもモジュレーションもまったく変化しないように設定されているプリセットがあることも考えられます。その場合はこれらのタッチストリップを操作しても何も変化しません。

2.5.5. シフト機能

MicroLab mk3 は非常にコンパクトですので、コントロール類の数は限定的ですが、Shift ボタンを使用することでボタンやストリップ、キーボードに隠された便利な別機能にアクセスすることができます。

2.5.5.1. コードモード

コードモードは、設定したコードを MicroLab mk3 のキーボードでワンフィンガーで演奏できる機能です。作曲時やライブ演奏などで楽しい、クリエイティブな機能です。



コードモードがオンのときは、Hold/Chord ボタンがゆっくり点滅します

コードを設定するには、**Shift** と **Hold** ボタンを押しながらキーボードでコードを押さえるか、コードの構成音を1つずつ足していきます (最低2音、最高16音)。コードの構成音をすべて押しましたら、Shift と Hold ボタンを放します。これでコードが記憶されます。コードが記憶されると、Hold ボタンがゆっくり点滅し、コードモードに入っていることを表示します。

この状態でキーボードで単音を弾くと、設定したコードを発音します。キーボードで色々な音程を弾くと、それに応じて設定したコードの最低音をリファンレスとしてコードがトランスポーズします。

コードモードを解除するには、Shift と Hold ボタンをもう一度押します。すると Hold ボタンの点滅が止まり、キーボードは通常の状態に戻ります。

2.5.5.2. コードモード：機能の詳細

- コードに設定できるのは、最低でも2音必要です。1音だけではコードを設定できません。
- コードの最低音をそのコードのルートにしたい場合（ほとんどの場合はそうかと思いますが）、コードの設定時に最低音を他の構成音よりも先に押さえる（弾く）ことでルートに設定できます。
- コードを設定するときは、レガート奏法はしないでください。また、Shift と Chord ボタンを押している間は、キーボードだけでなく Oct ボタンも使用でき、片手で一度に押さえられないような広い音域のコードを設定することもできます。
- MicroLab mk3 の電源が入ると、前回設定したコードが記憶されています。
- コードを設定するときは、キーボードのペロシティは考慮されません。コードの設定後、ワンフィンガーでコードを演奏するときは、キーボードのペロシティに応じてコードを発音します。

2.5.5.3. Selecting Presets in Analog Lab - Analog Lab のプリセットを選択する

MicroLab mk3 で Analog Lab を使用する場合、**Shift** を押しながら **Oct - (Previous)** と **Oct + (Next)** を押すと、Analog Lab のプリセットリストにあるプリセットを1つずつ切り替えることができます。このとき、**Oct -** で1つ前のプリセット、**Oct +** で1つ先のプリセットを選択できます。これは、ライブ演奏時やコンピュータを近くに置けない場合などに便利な機能です。



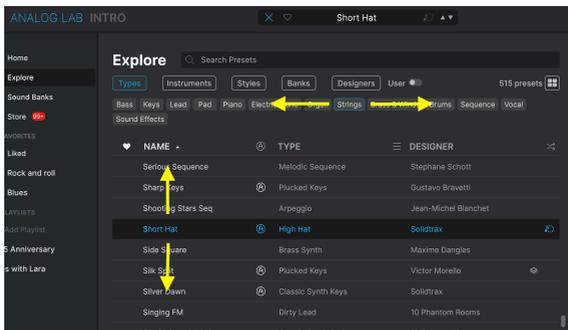
♪ Shift を押しながら Oct ボタンを繰り返し押すと、複数のプリセットをスキップできます。



♪ この機能を正しく動作させるためには、MIDI Controller 設定ページ (Analog Lab の画面右上にあるギアアイコン → MIDI) で MicroLab mk3 を選択する必要があります。

2.5.5.4. タッチストリップで Analog Lab のプリセットの選択やフィルタリングをする

MicroLab mk3 から Analog Lab Intro を操作する場合、コンピュータのマウスやトラックパッドを使わずにプリセットのフィルターやそれらをスクロールすることが簡単にできます。



- Shift を押しながらピッチストリップを上や下にスワイプすると、プリセットフィルター間を移動できます。
- プリセットフィルターを選択するには、Shift を押しながらピッチストリップをタップします (このときはスワイプしません)。
- Shift を押しながら Mod ストリップをスワイプするとフィルタリングされたプリセットリスト内を移動できます。
- 選択したプリセットをロードするには、Shift を押しながら Mod ストリップをタップします (このときはスワイプしません)。



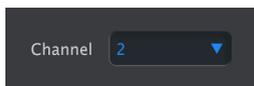
この機能を正しく動作させるためには、MIDI Controller 設定ページ (Analog Lab の画面右上にあるギアのアイコン → MIDI) で MicroLab mk3 を選択する必要があります。

2.5.5.5. MIDI チャンネルをキーボードで選択する

MicroLab mk3 で使用する MIDI チャンネルを選択するには、**Shift** を押しながらキーボードの最低音から 16 個のキーのいずれかを押します。チャンネルの番号 (1-16) は、下図のようにキーボードの最低音から 16 個までのキーの上にプリントされています。



MIDI チャンネルの設定は、MIDI Control Center アプリケーションからでも行えます (下図参照)。



3. MICROLAB MK3 で ANALOG LAB を操作する

このチャプターでは、付属の Analog Lab Intro を MicroLab mk3 で操作する方法をご紹介します。Analog Lab にはいくつかのバージョンがありますが、動作はすべて同じで、いくつかの機能も同じです。最上位機種種の Analog Lab Pro と Analog Lab Intro の違いは、プリセット数とプレイリストやステージビューといった機能の有無のみです。

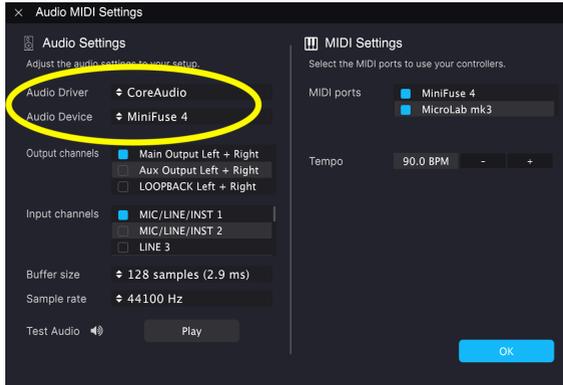


本マニュアルでは、Analog Lab のごく基本的な機能のみをご紹介します。Analog Lab の機能等の詳細につきましては、Analog Lab のユーザーマニュアルをご覧ください。

3.1. オーディオと MIDI の設定

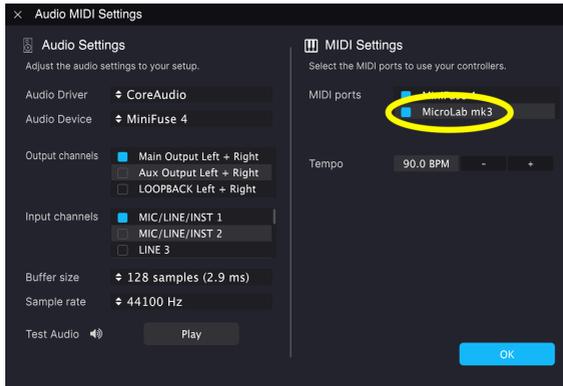
Analog Lab を開いて最初に行うことは、Analog Lab の音が正しく出力されるように設定することと、MicroLab mk3 からの MIDI メッセージを正しく受信するように設定することです。

Analog Lab の画面左上にあるハンバーガーアイコン (横3本線) をクリックしてメニューを開き、**Audio MIDI Settings** を選択します。ここでオーディオを出力するデバイスを選択できます。



ここで Play ボタンをクリックしてみましょう。短いサイン波の音が聞こえたら、オーディオが正しく設定されています。聞こえなかった場合は、オーディオドライバーの設定が正しいかどうか、そしてお使いのモニターシステム (ヘッドフォンやスピーカー) が正しく接続されていて、電源が入っているかどうかを確認してください。

MicroLab mk3 (や MIDI コントローラー) がコンピュータに接続されている場合、Audio MIDI Settings の画面に **MIDI Settings** (下図右側) が表示されます。ここでは、チェックボックスの右側に **MicroLab mk3** と表示されていれば、MicroLab mk3 で Analog Lab を演奏できます。



設定は以上です！この時点で MicroLab mk3 から Analog Lab を操作できるようになっているはずです。

3.2. 音を出す

MicroLab mk3 のキーボードを弾けば、Analog Lab の音が出ます。ピッチベンドとモジュレーションのストリップを操作すれば音が変化しますし、Oct - や Oct + ボタンを押せばキーボードの音域がオクターブ単位で変わります。Hold ボタンを押すと、ピアノのサステインペダルのように音が長く伸びますし、コードモードを使用すれば複雑なコードを設定し、それをワンフィンガーで簡単に演奏できます。これらのボタンとその機能の詳細につきましては、[チャプター2のトップパネル \[p.8\]](#)をご覧ください。

3.3. プリセットの選択

Analog Lab のプリセットは、コンピュータのマウスやトラックパッドでいつでも選択できます。



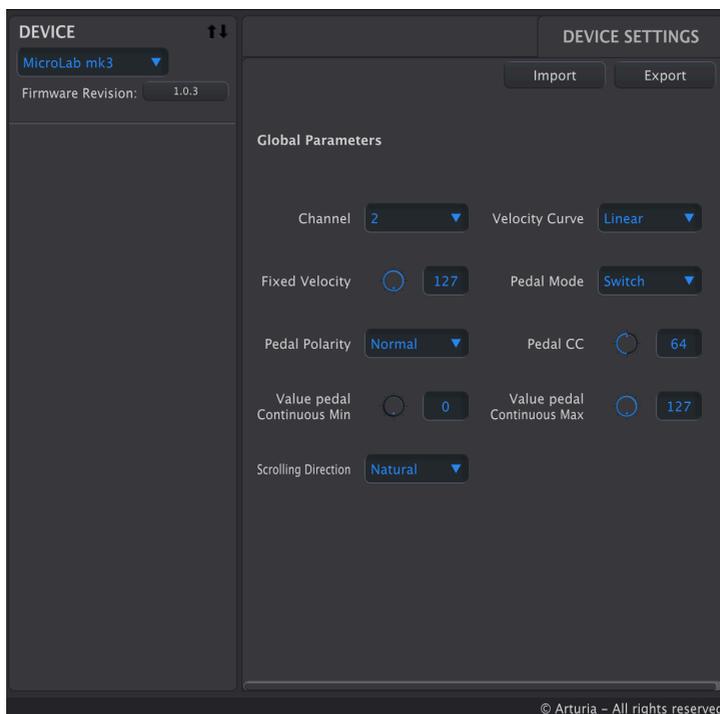
Analog Lab の画面最上部中央にある本棚アイコン (|||/) をクリックするとプリセットの選択/検索画面が開きます

しかし、MicroLab mk3 には便利なシフト機能があり、コンピュータを直接操作せずにプリセットを素早く選択できます。この機能は例えば、ライブ演奏時やセッティングの都合でコンピュータに手が届かないような場合に非常に便利です。操作は、**Shift** を押しながら **Oct -** または **Oct +** を押すだけです。

詳しくは、[チャプター2の Analog Lab のプリセットを選択する \[p.12\]](#)をご覧ください。

4. MIDI CONTROL CENTER

Arturia MIDI Control Center は、さまざまな Arturia ハードウェア製品のコントロール類 (キーボード、パッド、ノブ、ボタン、スライダーなど) を音楽的ニーズに合わせて最適な状態に設定できる強力なアプリケーションです。



4.1. 基本事項

このチャプターでは、MIDI Control Center の各種機能のうち、MicroLab mk3 に関連する機能のみをご紹介します。そのため、本マニュアルでは 紹介されない MIDI Control Center の機能が数多くあります。これは、MicroLab mk3 が機能を最小限に抑えた超ポータブルな製品ですので、例えばプリセット管理機能というような MIDI Control Center のパワフルな機能の多くを使用していないためです。MIDI Control Center の全貌と各種機能の詳細につきましては、[MIDI Control Center ユーザーマニュアル](#)をご覧ください。



♪ MIDI Control Center は、ほとんどの Arturia デバイスで使用できます。旧バージョンの MIDI Control Center をすでにインストール済みでしたら、MicroLab mk3 のサポートを含んだ最新版をダウンロードしてください。

4.1.1. インストールされる場所

MIDI Control Center のインストーラーをダウンロードしましたら、インストーラーをダブルクリックし、表示される指示に従って作業を進めてください。

通常、MIDI Control Center アプリケーションは他の Arturia 製アプリケーションと同じフォルダにインストールされます。Windows の場合、スタートメニューから見つけることができます。macOS の場合は、アプリケーション/Arturia フォルダにインストールされます。

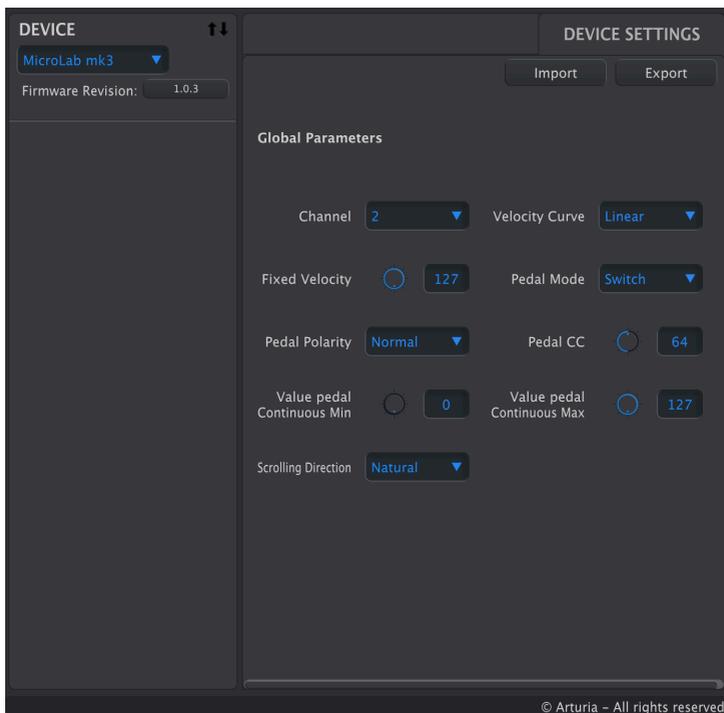
4.1.2. コンピュータと接続する

MicroLab mk3 を付属の USB ケーブルでコンピュータに接続し、MIDI Control Center アプリケーションを開きます。デバイスメニューの「Connected」の下に MicroLab mk3 が表示されるはずです：



「Connected」のところに MicroLab mk3 が表示されていない場合は、リストから選択してください。

4.2. MicroLab mk3 と MIDI Control Center



MicroLab mk3のパラメーターをMIDI Control Centerでエディットするのは非常に簡単です。エディット可能なパラメーターが画面の右側に表示され、設定を変更するとその情報がMicroLab mk3へ自動的に送信されます。

4.2.1. MicroLab mk3 で使用できるパラメーター

MIDI Control Center では、MicroLab mk3 の以下のパラメーターのエディットができます：

- **MIDI Channel**：MicroLab mk3 から送信する MIDI チャンネルを選択します。MicroLab mk3 の Shift を押しながらキーボードで MIDI チャンネルを設定することと同じ動作です。
- **Velocity Curve**：
 - *Linear* (リニア)：アコースティックピアノのように、キーボードを弾く強さに応じてベロシティ値が変化します。
 - *Logarithmic* (ログカーブ)：ある程度のタッチの強さまではベロシティ値が低く、それ以降からはベロシティ値が急激に高くなります。
 - *Exponential* (エクスポネンシャル)：弱めのタッチでもベロシティ値が高くなります。
 - *Fixed* (固定)：キーボードを弾くタッチの強さに関係なく、一定のベロシティ値になります。
- **Fixed Velocity**：Velocity Curve で *Fixed* を選択した場合、ここでベロシティ値を設定できます。
- **Pedal Mode**：サステインペダル、またはフットスイッチを接続する場合は *Switch* を選択します。エクスプレッションペダルを接続する場合は *Continuous* を選択します。
- **Pedal Polarity**：ペダルの動作が意図したものとは逆に動作してしまう場合は、ここで極性を変更できます。
- **Pedal CC**：サステインの MIDI コントロールチェンジ・ナンバーは 64 です。エクスプレッション (ボリューム) は CC 11 です。使用するペダルのタイプや用途に応じて、MIDI CC のナンバーを設定できます。
- **Value Pedal Continuous Min**：エクスプレッションペダルなどの連続可変コントローラーを使用する場合、その最小値をここで設定できます。
- **Value Pedal Continuous Max**：エクスプレッションペダルなどの連続可変コントローラーを使用する場合、その最大値をここで設定できます。上記の「Min」と併せて、コントローラーで操作する値の範囲を設定できます。
- **Scrolling Direction**：MicroLab mk3 の Shift を押しながらピッチストリップや Mod ストリップを操作したときに、Analog Lab のプリセットカテゴリーやプリセットがスクロールする方向を選択できます。

5. 規制関連情報

USA

重要な注意：本製品を改造しないでください。

本製品は、本マニュアルに記載の条件を満たした場合にのみ、FCC 規則に準拠します。本製品の使用に際して、FCC 規則に反する改造または変更を本製品に行うことは、Arturia 社および輸入代理店は一切承認いたしません。

重要：本製品をアクセサリ等関連製品やその他の機器に接続する場合は、高品質のシールドケーブルをご使用ください。また、本製品にケーブル類が付属している場合は、その用途に於いて必ずそれをご使用ください。本製品の設置は、ユーザー・マニュアル等に記載されている内容に従って行ってください。それ以外の方法等で本製品をアメリカ合衆国内で使用する場合は、使用者の権限が無効になる場合があります。

注意：本製品は、FCC 規則第15章に従ってクラスBデジタル機器の規制値に適合していることが試験により確認されています。この各種規制値は、本製品を一般家庭で使用する際に生じる有害な障害に対して合理的な保護となるよう策定されています。本製品は、無線周波数帯域のエネルギーを発生し、使用し、放射することがあります。また、本製品のユーザーズ・マニュアルに従わずに本製品を設置した場合は、他の電子機器に有害な干渉を及ぼす原因となる場合があります。本製品の電源をオンにしたりオフにしたりすることで、本製品がそのような有害な干渉を及ぼす原因であると確認された場合は、次の対処法を行ってください：

- 本製品または干渉の影響を受けている機器の設置位置を変更する。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける、またはACラインフィルターを使用する。
- ラジオやテレビが干渉を受けている場合は、それらの位置やアンテナの向きを変更する。アンテナの引込み線が300Ωのリボンフィーダー線だった場合は、引込み線を同軸ケーブルに変更する。
- これらの対処法が効果的でなかった場合は、本製品を購入された販売店やメーカーまたは輸入代理店にご相談ください。

なお、上記の記載内容は、アメリカ合衆国にディストリビュートされた製品にのみ適用されます。

カナダ

注意：本製品はカナダ国内の干渉機器基準で要求されるすべての規制に適合したクラスBデジタル機器です。

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

ヨーロッパ



本製品は、指令 2014/30/EU の要求基準に適合しています。

本製品が静電気放電の影響により適切に動作しない場合は、本製品の電源を入れ直してください。

6. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンサーとしてお客様（以下「ライセンサー」）に本ソフトウェア（以下「ソフトウェア」）のコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下「アートリア」）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 ライセンサーは、ソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 ライセンサーは、ソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。ライセンサーは、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項1に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。ライセンサーは、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

- 6. 権利の譲渡と著作権** ライセンシーは、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) ライセンシーは、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) ライセンシーが本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびライセンシーが有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。ソフトウェアライセンス 本契約の条件に同意されなかったことによる製品の返品。本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却（製品のアクティベーションなど）は、権利譲渡後にはできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、ライセンシーが負うものとします。
- 7. アップグレードとアップデート** ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。
- 8. 限定保証** アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はライセンシーのみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、ライセンシーが、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。
- 9. 賠償** アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。ライセンシーがこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。
- 10. その他の保証の免責** 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。
- 11. 付随する損害賠償の制限** アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります。上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、ライセンシーに特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。